

第1回 紙・パルプ（家庭紙分野）の物流における生産性向上及びトラックドライバーの
労働時間改善に関する懇談会
議事概要

1. 日 時

平成30年12月13日（木）16:00～18:00

2. 場 所

中央合同庁舎4号館1階 全省庁共用123会議室

3. 議事概要

- (1) 議題1「紙・パルプ（家庭紙分野）の物流における生産性向上及びトラックドライバーの労働時間改善に関する懇談会について」、議題2「トラック運送業の現状及び課題について」、議題3「紙・パルプ（家庭紙分野）の物流に関する現状及び課題について」、議題4「アンケートの実施について」について事務局より説明を行い、意見交換を行った。
- (2) 各委員からは、以下のような発言があった。

○家庭紙というのは、日用品の中の30近くのカテゴリーの中の1つである。物流の生産性を上げる過程で、いわゆる小売業者が大型化する事によって、小売業者自身がセンターを整備している。取引先の数だけトラックが来るという事は非常に非効率という事で、物流改革が始まっている。その中で、唯一に近い形でセンター納品から除外されている代表的なカテゴリーが家庭紙である。シャンプー、化粧品等、その他の商品は全て一括で物流センターに納めて、そこから各店舗に大型車で配送をしているのが現状であるが、家庭紙は別である。紙おむつは嵩張る商品だが、紙おむつの流通はセンタ一流通になっている。収納ケースや異形物はセンターを通らないで納入業者が運ぶこともある。それは、小売業物流センターは納入業者から運営費をもらって成り立っており、家庭紙は他の商品の手数料から比べると、3倍も4倍も取る形になってしまうため、家庭紙の業者が各店舗に直接配送をしているというのが現状で、それが何十年も前から続いている。課題の1つは、家庭紙は嵩が張って低単価で低収益であるということ。

○4トン車での納品は物理的に難しく、2トン車になる。大きいホームセンターなどでないと4トン車は入らない。トイレットペーパーは120ケースくらいしか積めず、金額では30万円程度。2万、3万の運送費を払っているとペイ出来なくなる。1店舗の販売量が多ければ、3～5店舗位で納品が完了という様な状況になるが、10年程前までは、なんとか2回転くらいできる位の販売量があったものの、この何年間はおバーストアで、1店舗の注文に10ケースなどの注文がくる様な状況ではなく、今は15店舗位運ばないとできない。2回転ではほぼ崩壊に近くビジネスモデルとしては成り立たない。販売量が落ち

てきていることと、交通事情の問題等がある。もう1つの課題は、単価が低いために、運送業者からの改善要望や値上げの要請など交渉が難しい。これまで低単価で売っていたが、低単価であるがゆえに、人件費の増加、高騰を吸収することはなかなかできない。

- 労働時間の短縮等の点だと、前日の夕方に注文を頂き、翌日午前中指定というのも結構ある。時間外労働しなければならないリードタイムを要求される。短いリードタイムで処理することは困難なのに、午前納品を希望する小売業者が多いのが現状。また、商品が嵩張るためバックヤードに置けず、大型の小売業者からは日曜日以外ほぼ毎日注文、納品というケースもある。少なくとも2日に1回という多頻度な状況にある。最近では日曜日の納品もある。以前のビジネスモデルでは、限界に近づいてきている。商品の価格も含めて、運用を変更しなければならない。
- 中小メーカーが多く、手積み手卸しが基本で、空間なく積載率を高めるのが特徴である。景気動向による数量変化は比較的少ないので、安定的な仕事がある。一方、エリアや大手と中小の差が大きく、静岡でトイレットペーパー生産のシェアが30%ある。この地区に特化する運送会社も存在する。以前はメーカーが仕立てた大型トラックが、そのメーカーの商品全てを積んで納品していたが、多品種小ロット化という動きもあり、必要な分だけ届けられる形があればということで、卸がメーカーに発注すると同時に運送会社にも発注する合い積みという方法で、卸主導のシステムができています。12月の繁忙期でも卸と運送事業者が連携することで問題が起きにくい。運賃はケース単位としてメーカーが契約している。
- 従来から、小売業の広域化や、製紙産業の没落の中で名古屋や関西圏の販売が増えている。家庭紙の輸送に慣れていないトラック事業者も多く、積み下ろしにロスをしていることもある。手積み、手卸しは敬遠されて、トラックの確保が難しいことも特に繁忙期には発生している。人手不足は顕著で若い人がきつい仕事を嫌う傾向が強い。これを解決すべく、大手メーカーを中心に、本年秋から、パレット輸送も試みている。体制的には、こちらに移行しなければならない。積載効率が落ちると単位あたり運賃の上昇やトラック台数の増加につながるので、極端な積載効率の減少は避けないといけない。
- 小売や通販のセンターに納入することが多いが、センターも荷物が集中することに困っている。付き合いがあるところは夜間の納入をしているが、販売先の理解を得て効率的に納入できるようにしないといけない。運賃は需給を考えると値上げもいたし方ない。
- 地場の運送事業者の懇談会でトラック業界の問題が挙げられた。小売業のセンターでの待機時間が長すぎる。路線便事業者のサービス低下が感じられる。昔は残業してでも集荷するということがあったが、最近は指導も厳しくドライバーの労働時間で集荷できないといわれる。ドライバーの高齢化が進んでおり、新しく従事する若い人がいない。昔は稼げたが、今は稼げるような働き方ができないという問題がある。製紙工場の閉鎖や

マシンの停止等があり、全体でトラックの台数が減っている。昔であったら無理が利いたことも、今ではできなくなっている。業界全体で生産性向上に取り組んでトラックを回せるように取り組むようにしたい。

- 今取り組んでいる課題としては、パレット輸送を再生紙メーカーと広げていくこと。また待機時間の改善、帰り荷の確保などもある。パレットについては、他の製紙メーカーと共同で取り組んでいる。トラック事業者からもバラ積みならやらない（パレット積みならやる）と言われており、その対応として実施している。トラックが10トンでも重量が軽いので積めるのは6トンくらい。標準パレットに積みつけると、家庭紙は嵩があるので積載効率が落ち、60%くらいになる。社建てでトラックを契約しているとメーカーの負担となる。個建てで契約しているとトラック事業者が、荷量が減る分だけ負担になる。どちらかが負担せざるを得ない。ビール業界が実施したように、家庭紙業界でも専用パレットを作ろうと、レンタルパレット屋と共同で始めているところ。積載効率80%以上を目指し、パレットで運ぶようにしている。一つは工場からセンターに運ぶ場合、もう一つは卸業者に運ぶ場合。前者が8割、後者が2割。卸は小型車が多い。センターには大型車で、パレットで運べる。手積み、手卸しならそれぞれ90分かかっていたのが、15分でできるようになる。しかし、ドライバーがやっていた荷卸しを卸やセンターがやることになり、卸の方からすると進めるのが難しい。待機時間を集計すると2時間36分の平均待機時間となった。長い所では朝到着して午後2時に卸すこともある。パレット輸送を推進していきたいが、メーカー側からすると、パレタイザーの改修費用が1台あたり数億と負担が大きい。その投資が問題で、全てがすんなり進むわけではない。将来的なドライバー不足という大義名分はあるが、なかなか厳しい現実もある。
- 待ち時間は日用品の業界や加工食品業界が多い。異業種交流委員会として、加工食品の話をすると、即席麺がほとんど手積み手卸しになっている。専用パレットを作成したが、入らないので、特売用のパレットで回している。共同利用をぜひ進めて欲しい。また、業界にあるプラネットの標準化を進めている会社があり、担当者の話が印象的だった。入庫後のラベル貼りなどの附帯作業についても、事前に情報をもらえたら対応ができる。
- 待ち時間が長いということは良く聞いている。納品は遅刻が許されないことや、渋滞がない時間に移動したいというドライバーの事情もあるが、スムーズに荷卸しができる取組について考える必要がある。
- 10月から何社かのメーカーがパレット積みをしている中で、ドライバーの荷降し時間は大きく軽減される。現在、ベテランで1時間半、慣れていない人は3時間の荷降ろし時間が掛かっているが、パレットは慣れれば荷降し時間が15分程度になる。全メーカーがパレットに対応すれば変わるだろう。受ける倉庫側の態勢が整っていない、7段積みで持っても倉庫内が5段積みでレイアウトしていると2段分降ろす必要がある。その荷役に時間が掛かる為、バラ積み納品している業者は、待機時間が長くなるのが現実。

- 受け側の人手不足もあり 1 人で何台も対応しなければならない。労働時間を短くする課題の中で、納品時間指定にも大きな問題となる。パレット化は改善の手がかりにはなるが、それだけでは大きくは変わらないだろう。4 トン、2 トントラックなども扱っているが、ドラックストア、ホームセンター等、納品所の無い所、路上駐車で納品しなければいけない所も多々ある。2 トン車は待ち時間は少ないと言われるが、台車で店舗まで運ぶ等、全体として時間はかかる。幹線だけではなく、足回りにも問題は生じている。
- 資料 4 P15 のトラック輸送における高速道路利用率で、全体は 48.8%という中で、紙製品は 24.5%という事で利用率が低い。輸送の効率化、労働時間の短縮という面からも分析して欲しい。P30 の帰り荷確保で、紙製品に限って、帰り荷を確保できる輸送のノウハウ等を検討してはどうか。パレット輸送の面では、現在農産物のパレット推進協議会ができて、パレットの回収システムの関係、方法等も参考にしていけば良いのでは。
- 統計だけで見るとはなかなか難しい、現状を含めて整理して欲しい。パレット化も相当複雑。事務局としては、その点も踏まえて現状と課題という事で整理する必要がある。
- 家庭紙ではパレットが 2 種類ある。1440×1130×120、1250×1050×100の 2 タイプとしている。1130は普通の規格だが、高さが150だとティッシュがもう 1 段が積みなくなるという事で、120を作った。後は標準の規格のパレットと、3つのパレットを共同利用している。
- サプライチェーンのどこかによっても問題点や課題も異なってくる。事務局で整理して欲しい。

以上
(文責：事務局)